

公
開
講
演
会

マヤが教えてくれるもの

講師

八杉佳穂

国立民族学博物館教授

2008.6.26 木

時 間 | 13:15~14:45 ※開場/12:45

会 場 | 東京女子大学 24202教室
(東京都杉並区善福寺2-6-1)

アクセス | JR西荻窪駅または吉祥寺駅より関東バスで
「東京女子大前」下車

案 内 | 東京女子大学比較文化研究所
◎ 03-5382-6506 (行事案内テープ)
◎ <http://lab.twcu.ac.jp/icsc/home/html>

申込不要・聴講無料・定員350名



ピエトス・ネグラス王座

東京女子大学比較文化研究所

マヤが教えてくれるもの



ウシュマル 魔法使いのピラミッド



ヤシュチラン リンデル

講演梗概

「マヤが教えてくれるもの」 八杉佳穂

マヤ文明は四大文明と比べても引けを取らない。自分たちで創った文字を使って3世紀にはすでに自分たちの歴史を石に刻んで残していたのである。歴史を刻むということは、正確な暦が必要であるが、暦元の日を決めてそこから数える絶対暦を西暦以前にすでに使っていた。熱帯ジャングルの中に、壮大な建築群を石器だけで建て、繁栄を極めていた古典期文明も、しかしながら、10世紀には衰退した。そして16世紀にはスペイン人の征服にあって、混雑文化が生まれた。そうした歴史の中にいまも800万のマヤ人が生きている。汲んでもつきない泉のごとき豊かさをたたえている3000年のマヤの歴史を、比較の視点から、汲みあげてみよう。

講師紹介

やすぎ よしほ
八杉 佳穂 国立民族学博物館教授

1950年広島県生まれ。1972年京都大学工学部卒業。1975年京都大学文学部卒業。現在、国立民族学博物館教授。総合研究大学院大学教授。文学博士。専門は中米言語学、文字学、中米文化史。

主著に、『マヤ文字を書いてみよう読んでみよう』（白水社）、『チョコレート文化誌』（世界思想社）、『マヤ文字を解く』（中央公論新社）、『マヤ興亡』（福武書店）、『マヤ学を学ぶ人のために』（編著、世界思想社）、『現代マヤ：色と織に魅せられた人々』（編著、千里文化財団）など。



アクセス

■JR西荻窪駅北口より徒歩12分

■バス利用の場合

- 西荻窪駅北口(1番のりば)から
吉祥寺駅行、「東京女子大前」下車
- 吉祥寺駅北口(3番のりば)から
西荻窪駅行、「東京女子大前」下車
- 上石神井駅南口から西荻窪駅行、
「地蔵坂上」下車徒歩5分



【所在地】〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 ※車でのお来場はご遠慮ください。